



気になるあいつ
わかぎゑふ

双葉社

気になりすぎる ユウちゃん

以前、ラテン系の男が気になる。好みだと書いた。ラテン系の男たちは女を明るい気分にさせてくれる。それはいかにも関西人の発想かもしれない。なんせ大阪の女の子の理想の男の条件NO1は「面白い人」である。「格好いい」が一番の東京に対してかなりお茶目な統計である。

さて、ラテン系の男たちといっても、好みから言うと顔が少々難である。実際には顔はアジア系、しかもヤクザか？と思われるような厳つい男で、性格が前向きなラテン系が本当は一番いい！アジア映画のスターで言うとトニー・レオンなどがその匂いの人だろうか。あれで

もつと目がきつかったらいいのにと思う。

韓国映画のスター、チョン・ウソンもなかなか素晴らしい。「MUS A 武士」という作品しか知らないのがちよつと怖いが、あの映画の彼だったら100点である。ソン・ガンホなどもいい感じである。眼力のあ
るいい顔をしている。

私の好みなんかここで発表しても仕方ないと思うのだが、今回は特別だ。なんととってもごく身近に理想の男性がいることを知ったからである。と、いうのもうちの劇団員、宮村陽子と話をしている時だった。

「うちのお兄ちゃん、めっちゃ面白いですよ」で始まった、宮村の兄「ユウちゃん」の話は本当に面白かった。なんととっても普通のサラリーマンなのだが香港映画にまで出演したことがあるという経歴の持ち主なのである。

なんでも、ユウちゃんはヤクザ映画の撮影の見学に行った時に「あな

た、ちよつとここに立つてもらえませんか」とエキストラにスカウトされたという。ま、顔がそれだけ役者以上にヤクザな面持だったわけだが。その後彼は時々、ヤクザ映画に出演するようになった。人間どこに活路を開くかは分からないものである。そして、ついには台詞のある役まで貰うようになって、香港映画にまで借り出されたことがあるわけである！ 役者である妹が劇団の下っ端時代で苦労してる最中だったにもかかわらず、サラリーマンの兄は気軽に映画出演をしてたというのだから運命は皮肉なものだ。

しかも、会社の社長がそれが気に入って、ユウちゃんが映画に出ると言うと有休をくれるらしい。社長としても社員が映画に出るといふと話が盛り上がるので、特別待遇を許しているのだろう。ものすごい環境だ。

この、ユウちゃんという人の雰囲気とかエピソードがかなり気に入っていた私は、宮村が彼に電話してる時に後ろから「ユウちゃん！」などと叫んで面白がっていたりもした。

向こうも私を認識してくれたのか、自分が出演しているDVDを貸してくれたりするようになった。写真は「フィールズ・エンジェル」というVPに出演した時のジャケットから映したものだ(ええ感じでしょ?)。おまけにユウちゃんは矢沢永吉の大ファンらしく、なんと関西地区のファンクラブのメンバーで矢沢の歌を歌うコンサートにも出演していた。先日、そのビデオも見せてもらったのだが、恐ろしいことに歌まで上手い! 我が家で数人の劇団員と見たのだが、みんなユウちゃんにメロメロである。うちの旦那まで「ユウちゃん格好ええわ」と言い出すくらいだった。

ユウちゃんは最近、妹が出てるので、うちの芝居を必ず観に来てくれる。春の芝居では泣いてくれたらしい。そんな彼が今度劇場に現れたら、逆に「あ、ユウちゃんや!」と密かに喜ぶ役者たちが居るとも知らないで…。うー、気になりすぎるユウちゃんだ。一回飲みたいものである。

【著者略歴】

わかぎさるふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より作家・中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーⅡ」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇団」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっこのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『イブの抜け穴』『大阪弁の詰め合わせ』など多数。
